

海外インターンシッププログラム

派遣国・都市名	オーストラリア 西オーストラリア州 パース市
研修先	西オーストラリア州・兵庫文化交流センター
プログラム実習期間	2013年8月20日～9月10日
学部/研究科・学年	文学部 4年

インターンシップ就業実習 報告書

今回、西オーストラリアパースの兵庫文化交流センターにおいて、2013年8月20日から9月10日までの3週間、就業経験をさせて頂いた。全ての業務を通して、海外での日本文化普及の意味を実感できたと共に、価値観の違いを痛感する場面もあった。以下、業務ごとの内容と、総合的な感想を述べてゆく。

・スクールビジット

スクールビジットとは、現地の小学生・中学生が、日本語や日本文化を学ぶためにセンターを訪れる行事であり、年齢や時間に合わせて、書道やクイズ等のメニューが用意されている。今年のインターンシップでは、計8回ものスクールビジットがあり、私たちの中心業務として補佐を務めた。業務内容は、アクティビティの準備や後片付けはもちろん、インタビューとして参加したり、日本での書道経験を話したり、自分次第で業務の幅が広がった。後半には、訪れた全生徒の前で内容説明をさせて頂き、自身の成長を感じることができた。

・ワークショップの企画運営

私たちのインターンシップの集大成として、最後の土曜日にワークショップを実施した。企画の発案から当日の運営まで全て私たちに任されており、スクールビジット等の日常業務に追われながら、ワークショップの準備を進める必要があった。

まず内容を決定し、告知用のフライヤーを作った。内容は、プレゼンテーション・アクティビティ・試食の3パート構成で、アクティビティと試食の内容に関しては、日本で事前に話し合いを持つことが出来たため、比較的スムーズに決定した。

しかし、プレゼンテーションパートの作成に非常に苦労した。というのも、今年は伝統的な日本文化よりも、モダンカルチャーに焦点を当てて紹介すると決めたからだ。ポップミュージックや映画の紹介と、兵庫県を関連させるのが難しかったが、センターの方の協力を得て何とか30分間のプレゼンテーションを仕上げた。

最終的な内容は、

- ・プレゼンテーション: ポップミュージックを通して COOL JAPAN の紹介、映画を通して兵庫県の紹介・日本とオーストラリアの絆を紹介
- ・アクティビティ: ポケモンなど、有名キャラクターの福笑い
- ・試食: お月見を説明し、月見団子作りの体験・試食、炊き込み御飯のおにぎり作り体験・試食となった。

当日は50名以上の集客があり、多くの方に楽しんでもらえた。

このワークショップ運営を通して、1つのプロジェクト成功のためには、何よりも綿密な計画が必要であること、様々なケースを想定し、対策する必要があることなど、将来社会で役立つ事を学んだ。これを海外で出来たことは、自分の自信にもつながった。残りの学生生活でも役立てていきたいと考えている。

・日常業務

図書館業務:センターでは、現地の日本人向けの絵本や小説、また、現地人向けの日本語参考書等、様々な資料を貸出する図書館のようなサービスがある。貸出方法や新しい本の追加など一通り教えていただき、職員の方々の負担を減らすようサポートにあたった。

チャッターボックスの担当:毎週土曜日の午後、センターを開放して日本人とオーストラリア人が自由に交流できる、チャッターボックスという時間が設けられていた。ここで利用するお茶やお菓子のテーブル準備や、交流に混じって話をするのも私たちの業務だった。熱心に日本語を勉強する人々の姿に刺激を受け、自らのスキルや姿勢について考えさせられた。

感想および意見

まず、センターの方々が、私たちに多様な経験をさせてくださったことに深く感謝したい。例えば、現地の方がセンターに視察に来られ、私たちインターン生を、海外日本語教育の意見交換セミナーに誘ってくださったことがあった。副所長は、よい経験だと快く送迎してくださった。私たちはそのセミナーをきっかけに、センターの仕事だけでは知り合うことのできなかつた人々と交流を広げることができた。新しい友人たちから刺激を受け、パースでの滞在がより有意義なものとなったと考えている。

続いて、大きな反省点もある。価値観の違いや対話不足によって、ホームステイ先のお宅に迷惑をかけてしまったことだ。ワークショップの前日、私たちは大量のたきこみご飯を自宅で作る必要があった。センターでの業務終了後に作り始めたので時間が遅くなってしまい、家族の大切な団欒の時間を邪魔してしまう結果となった。その後ファミリーと話し合い、オーストラリア人の家族や仕事、時間に対する考え方を学ぶことができた。この経験から、来年社会に出る者として、大切な気づきを得られたと考えている。来年インターンシップでオーストラリアへ行く方がいれば、それぞれの家庭のあり方をよく観察し、センターの方々とも相談して作業スケジュールを慎重に計画してもらいたいと思う。

大学4年のこの時期に、海外で本格的な就業体験が出来た事で、良い気づきをたくさん得ることが出来た。この素晴らしい機会を、もっと多くの人に挑戦してもらいたい。

